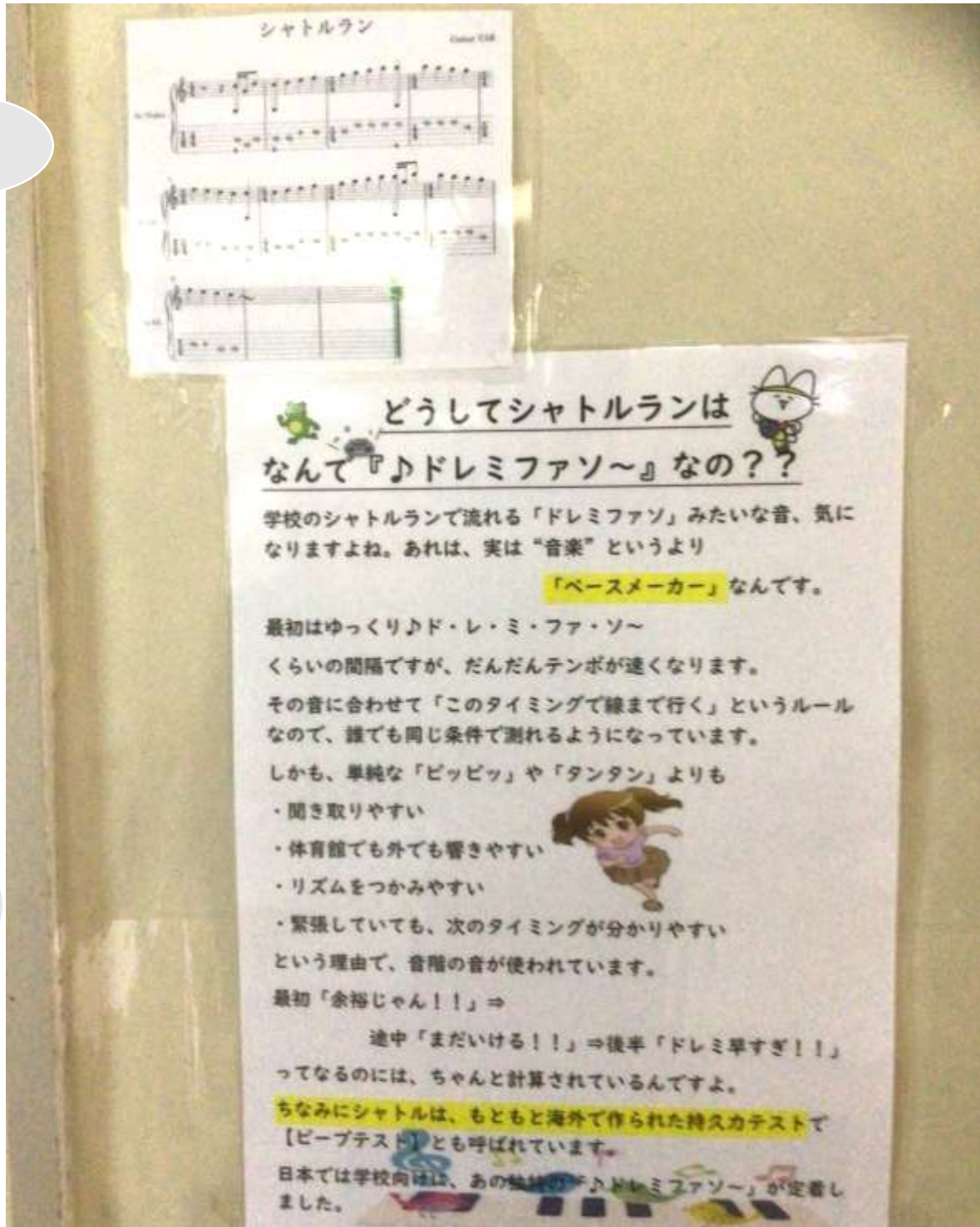


扇小レポート 807 シャトルラン

音楽室の廊下に貼ってありました。

シャトルランの音楽について、「問い」が生まれたようです。

今まで考えたこともなかったので、勉強になりました。



シャトルラン

どうしてシャトルランは
なんて『♪ドレミファソ〜』なの??

学校のシャトルランで流れる「ドレミファソ」みたいな音、気に入りますよね。あれは、実は“音楽”というより

「ベースメーカー」なんです。

最初はゆっくり♪ド・レ・ミ・ファ・ソ〜
くらいの間隔ですが、だんだんテンポが速くなります。
その音に合わせて「このタイミングで線まで行く」というルール
なので、誰でも同じ条件で測れるようになっています。
しかも、単純な「ビッビッ」や「タンタン」よりも

- ・聞き取りやすい
- ・体育館でも外でも響きやすい
- ・リズムをつかみやすい
- ・緊張していても、次のタイミングが分かりやすい

という理由で、音階の音が使われています。

最初「余裕じゃん!!」⇒
途中「まだいける!!」⇒後半「ドレミ早すぎ!!」
ってなるのには、ちゃんと計算されているんですよ。

ちなみにシャトルは、もともと海外で作られた持久力テストで
【ビーブテスト】とも呼ばれています。

日本では学校向けには、あの独特の♪ドレミファソ〜が定着し
ました。

よく読むと、シャトルランの歴史も分かります。良い「問い」でした。